

平成23年度
事業報告書

学校法人 常葉学園

目 次

1. 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	4
(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等の状況	5
(5) 役員の概要	6
(6) 評議員の概要	7
(7) 教職員の概要	8

2. 事業の概要

(1) 事業の概要	9
(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況	9
(3) 施設等の状況	2 6
(4) その他	2 8

3. 財務の概要

(1) 財務の概要	2 9
(2) 資金収支計算書	3 0
(3) 消費収支計算書	3 1
(4) 貸借対照表	3 2
(5) 主な財務比率比較	3 3
(6) 借入金の状況	3 3
(7) 寄付金の状況	3 4
(8) 補助金の状況	3 4

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本法人の建学の精神は、次に掲げるとおりです。

建学の精神

常葉学園は、学問の研究と人間の育成に限りない情熱を傾けられた日本史学の泰斗木宮泰彦先生によって、昭和二十一年に創立された。「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない。」とのゆるぎない信念のもとに、敢えて困難をも顧みず常葉学園の創立にあたられたのである。この教育の力に対する創立者の信頼と確信こそは、本学園の建学の精神の根本である。

創立者木宮泰彦先生は「万葉集」に見える聖武天皇の御製

橘は 実さへ 花さへ その葉さへ
枝に霜ふれど いや常葉の樹

に因んで学園を「常葉」と名づけ、その理想の姿を橘の瑞木に託された。霜雪に耐えてつねに青々とした葉を繁らせ、純白で香り高い花を咲かせ、豊かな黄金の実を結ぶ橘こそは、常葉学園の教育理念の象徴である。即ち、本学園の理想とする人間像は、美しい心情をもって、国家・社会・隣人を愛し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にもうち克ち、より高きを目指して学び続ける人間である。

百丈禅師のこゝば「一日作さざれば一日食はず」を自戒として、日々研鑽を積まれた学園創立者木宮泰彦先生の生涯は、まさにこの建学の精神の具現であった。先生は順境に奢らず、逆境にめげず、常によりよき自己の実現のために、生涯にわたって真摯な努力を続けられた。この創立者の精神こそ常葉学園にかかわるすべてのものの心である。

(2) 学校法人の沿革

昭和21年	6月	静岡女子高等学院創立
昭和22年	11月	静岡女子高等学院設置認可
昭和23年	2月	財団法人常葉学園設置認可
	4月	常葉中学校開校
昭和25年	12月	財団法人から学校法人へ組織変更認可
昭和26年	8月	静岡女子高等学院を高等学校として設置認可
	10月	静岡女子高等学院を常葉高等学校に名称変更認可
昭和27年	4月	常葉高等学校（普通科）開校
昭和28年	7月	各種学校たる静岡女子高等学院廃止認可
昭和38年	4月	橘高等学校開校
昭和40年	4月	橘中学校開校
昭和41年	4月	常葉女子短期大学（国文科、保育科）開学 常葉女子短期大学附属とこは幼稚園開園

昭和43年	4月	常葉女子短期大学に音楽科設置
昭和45年	4月	常葉女子短期大学に専攻科（保育専攻、音楽専攻）設置 常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園開園
昭和46年	4月	橘高等学校に音楽科設置
昭和47年	4月	常葉女子短期大学に英文科、美術・デザイン科設置 常葉短大附属菊川高校（普通科、美術・デザイン科）開校
昭和53年	4月	常葉学園橘小学校開校 学園内各校（園）の名称変更 ○常葉女子短期大学→常葉学園短期大学 ○常葉女子短期大学附属とは幼稚園→常葉学園短期大学附属とは幼稚園 ○常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園→常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園 ○常葉高等学校→常葉学園高等学校 ○常葉中学校→常葉学園中学校 ○橘高等学校→常葉学園橘高等学校 ○橘中学校→常葉学園橘中学校 ○常葉短大附属菊川高校→常葉学園菊川高等学校
昭和55年	4月	常葉学園大学（教育学部初等教育課程）開学
昭和56年	4月	常葉学園橘小学校を常葉学園大学教育学部附属橘小学校に名称変更
昭和58年	4月	常葉学園橘高等学校に英数科設置
昭和59年	4月	常葉学園大学に外国語学部（英米語学科、スペイン語学科）設置
昭和63年	4月	常葉学園浜松大学（経営情報学部経営情報学科）開学
平成2年	4月	常葉学園富士短期大学（商学科、国際教養科）開学
平成5年	4月	常葉学園短期大学専攻科（保育専攻、音楽専攻）が学位授与機構から認定専攻科の認定を受ける
平成6年	4月	常葉学園浜松大学に国際経済学部（国際経済学科）設置 常葉学園短期大学専攻科（美術・デザイン専攻）[学位授与機構認定専攻科]設置
平成7年	4月	常葉学園短期大学国文科を国語国文科に英文科を英語英文科に名称変更するとともに専攻科国語国文専攻 [学位授与機構認定専攻科] 及び留学生別科設置 学校法人浜松常葉学園が発足し、常葉情報専門学校開校
平成8年	4月	常葉学園大学大学院国際言語文化研究科（国際教育専攻、英米言語文化専攻）設置 常葉学園浜松大学大学院経営学研究科（経営学専攻）設置 常葉学園医療専門学校（理学療法学科、作業療法学科）開校 常葉情報専門学校を常葉環境情報専門学校に名称変更

平成10年	4月	常葉学園大学教育学部に生涯学習学科設置 常葉学園浜松大学を浜松大学に名称変更
平成12年	4月	富士常葉大学（流通経済学部流通経済学科、環境防災学部環境防災学科）開学
平成13年	4月	浜松大学経営情報学部に情報ネットワーク学科設置 常葉学園短期大学国語国文科を日本語日本文学科と名称変更
	10月	常葉学園富士短期大学廃止認可
平成14年	4月	常葉学園大学に造形学部（造形学科）設置
平成15年	4月	常葉学園菊川中学開校 常葉学園短期大学留学生別科廃止
平成16年	3月	常葉学園短期大学美術・デザイン科及び専攻科(美術・デザイン専攻)廃止
	4月	常葉学園大学教育学部に心理教育学科、外国語学部にグローバルコミュニケーション学科設置
平成17年	4月	浜松大学に健康プロデュース学部（健康栄養学科、こども健康学科、心身マネジメント学科）及び留学生別科設置 常葉学園医療専門学校に鍼灸学科、柔道整復学科設置 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校（理学療法学科）開校
平成18年	4月	富士常葉大学に大学院環境防災研究科、保育学部（保育学科）、留学生別科を設置するとともに流通経済学部（流通経済学科）を総合経営学部（総合経営学科）に名称変更
平成19年	4月	浜松大学にビジネスデザイン学部（経営情報学科、サービスと経営学科）設置
平成20年	4月	常葉学園大学大学院に初等教育実践研究科（初等教育高度実践専攻）設置 学校法人常葉学園が学校法人浜松常葉学園を吸収合併
	7月	常葉学園大学外国語学部スペイン語学科廃止届出
	9月	常葉環境情報専門学校廃止認可
平成21年	4月	浜松大学保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）設置 浜松大学大学院健康科学研究科設置
平成22年	3月	浜松大学経営情報学部（経営情報学科・情報ネットワーク学科）及び国際経済学部（国際経済学科）廃止
	4月	浜松大学健康プロデュース学部（健康柔道整復学科、健康鍼灸学科）設置 富士常葉大学社会環境学部（社会環境学科）設置

(3)設置する学校・学部・学科等

(平成24年5月1日現在)

学校名	開校年月	研究科・学部・課程等	専攻・学科・科	開設年月	摘要
常葉学園大学	昭和55年4月	教育学部	初等教育課程	昭和55年4月	
			生涯学習学科	平成10年4月	
			心理教育学科	平成16年4月	
		外国語学部	英米語学科	昭和59年4月	
グローバルコミュニケーション学科	平成16年4月				
造形学部	造形学科	平成14年4月			
常葉学園大学大学院	平成8年4月	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	平成8年4月	
			国際教育専攻	平成8年4月	
		初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	平成20年4月	
浜松大学	昭和63年4月	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	平成19年4月	
			サービスと経営学科	平成19年4月	
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成17年4月	
			こども健康学科	平成17年4月	
			心身マネジメント学科	平成17年4月	
			健康鍼灸学科	平成22年4月	
		保健医療学部	健康柔道整復学科	平成22年4月	
			理学療法学科	平成21年4月	
			作業療法学科	平成21年4月	
			留学生別科	平成17年4月	
浜松大学大学院	平成8年4月	経営学研究科	経営学専攻	平成8年4月	
		健康科学研究科	健康栄養科学専攻	平成21年4月	
			臨床心理学専攻	平成21年4月	
富士常葉大学	平成12年4月	総合経営学部	総合経営学科	平成12年4月	
		環境防災学部	環境防災学科	平成12年4月	※1
		保育学部	保育学科	平成18年4月	
		社会環境学部	社会環境学科	平成22年4月	
		留学生別科	平成18年4月		
富士常葉大学大学院	平成18年4月	環境防災研究科	環境防災専攻	平成18年4月	
常葉学園短期大学	昭和41年4月		日本語日本文学科	昭和41年4月	
			英語英文科	昭和47年4月	
			保育科	昭和41年4月	
		専攻科	音楽科	昭和43年4月	
			国語国文専攻	平成7年4月	
			保育専攻	昭和45年4月	
常葉学園医療専門学校	平成8年4月	医療専門課程	音楽専攻	昭和45年4月	
			理学療法学科	平成8年4月	※2
			作業療法学科	平成8年4月	※3
			鍼灸学科	平成17年4月	※4
柔道整復学科	平成17年4月	※5			
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	平成17年4月	医療専門課程	理学療法学科	平成17年4月	
常葉学園高等学校	昭和27年4月	全日制課程	普通科	昭和23年4月	※7
常葉学園橘高等学校	昭和38年4月	全日制課程	英数科	昭和58年4月	
			普通科	昭和38年4月	
			音楽科	昭和46年4月	※6
常葉学園菊川高等学校	昭和47年4月	全日制課程	普通科	昭和47年4月	
			美術・デザイン科	昭和47年4月	
常葉学園中学校	昭和23年4月				
常葉学園橘中学校	昭和40年4月				
常葉学園菊川中学校	平成15年4月				
常葉学園大学教育学部附属橘小学校	昭和53年4月				
常葉学園短期大学附属とこは幼稚園	昭和41年4月				
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園	昭和45年4月				

※1 平成21年度から学生募集を停止し、平成24年度をもって廃止予定

※2.3 平成20年度から学生募集を停止し、平成24年3月末在校生が全ていなくなったので廃校手続き

※4.5 平成21年度から学生募集を停止し、平成24年3月末在校生が全ていなくなったので廃校手続き

※6 平成23年度から学生募集を停止し、平成25年度をもって廃止予定

※7 学則、寄附行為に名称のみ存在する「家庭科」は長期間、在校生が存在しないので学科の廃止手続き

(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等数の状況

(平成23年5月1日現在)

学 校 名	研究科・学部・課程等名	専攻・学科・科名	入学定員数	取容定員数	現員数
常葉学園大学	教育学部	初等教育課程	110	440	517
		生涯学習学科	60	250	270
		心理教育学科	60	260	282
	外国語学部	英米語学科	100	430	473
		グローバルコミュニケーション学科	70	300	244
	造形学部	造形学科	80	330	346
常葉学園大学大学院	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	10	20	1
		国際教育専攻	10	20	4
	初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	20	40	31
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	120	610	337
		サービスと経営学科	120	580	416
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	340	255
		こども健康学科	60	280	137
		心身マネジメント学科	110	470	378
		健康鍼灸学科	30	60	15
		健康柔道整復学科	30	60	50
	保健医療学部	理学療法学科	40	120	139
		作業療法学科	40	120	70
			留学生別科	40	40
浜松大学大学院	経営学研究科	経営学専攻	15	30	38
	健康科学研究科	健康栄養科学専攻	10	20	2
		臨床心理学専攻	10	20	18
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	160	730	646
	環境防災学部	環境防災学科 ※1	-	310	190
	保育学部	保育学科	80	330	345
	社会環境学部	社会環境学科	130	260	167
		留学生別科	30	30	4
富士常葉大学大学院	環境防災研究科	環境防災専攻	10	20	7
常葉学園短期大学		日本語日本文学科	80	160	113
		英語英文科	80	160	110
		保育科	200	400	439
		音楽科	55	110	76
	専攻科	国語国文専攻	20	40	9
		保育専攻	20	40	16
		音楽専攻	20	40	50
常葉学園医療専門学校	医療専門課程	理学療法学科 ※2	-	40	32
		作業療法学科 ※3	-	40	16
		鍼灸学科 ※4	-	60	15
		柔道整復学科 ※5	-	60	19
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	医療専門課程	理学療法学科	80	320	221
常葉学園高等学校	全日制課程	普通科	240	720	643
常葉学園橘高等学校	全日制課程	英数科	80	240	95
		普通科	420	1,260	801
		音楽科	40	120	38
常葉学園菊川高等学校	全日制課程	普通科	315	945	882
		美術・デザイン科	60	180	127
常葉学園中学校			80	240	127
常葉学園橘中学校			90	270	226
常葉学園菊川中学校			60	180	163
常葉学園大学教育学部附属橘小学校			60	360	330
常葉学園短期大学附属とこは幼稚園				240	244
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園				230	237

※1 平成21年度から学生募集を停止し、平成24年度をもって廃止予定

※2.3 平成20年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止（平成24年度廃止手続き）

※4.5 平成21年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止（平成24年度廃止手続き）

(5) 役員概要

理事13人(定数10人以上13人以内)

監事 5人(定数 2人以上 5人以内)

〈平成23年4月1日現在〉

区分	氏名	常勤・非常勤別	摘要
理事長	木宮健二	常勤	平成14年4月理事就任 平成14年4月理事長就任 平成19年4月富士常葉大学学長就任
副理事長	木宮一邦	常勤	平成9年4月理事就任(平成11年3月迄) 平成9年4月副理事長就任(平成11年3月迄) 平成14年4月浜松大学学長就任(平成22年3月迄) 平成14年4月理事就任 平成21年4月副理事長就任
副理事長	木宮岳志	常勤	平成19年5月理事就任 平成21年4月副理事長就任 平成22年4月常葉学園短期大学学長就任
常務理事	高木敏正	常勤	平成21年4月理事就任 平成21年4月常務理事就任
常務理事	加藤薫	常勤	平成23年4月理事就任 平成23年4月常務理事就任
理事	角替弘志	常勤	平成22年4月常葉学園大学学長就任 平成22年4月理事就任
理事	中村正義	常勤	平成22年4月浜松大学学長就任 平成22年4月理事就任
理事	吉村耕司	常勤	平成20年4月常葉学園橘中・高等学校校長就任 平成21年4月理事就任
理事	木村美知子	常勤	平成23年4月常葉学園中・高等学校校長就任 平成23年4月理事就任
理事	三浦均	非常勤	平成17年4月理事就任 平成17年4月常務理事就任(平成23年3月迄)
理事	宮川勇	非常勤	平成23年4月理事就任(スズキ株式会社顧問)
理事	神野建二	非常勤	平成23年4月理事就任(東海澱粉株式会社代表取締役会長)
理事	北村敏廣	非常勤	平成23年4月理事就任(株式会社静岡新聞社代表取締役専務)
監事	加藤正秀	非常勤	昭和62年10月理事就任(平成14年3月迄) 平成14年4月監事就任(学校法人加藤学園理事長)
監事	高木伯一	非常勤	昭和50年10月理事就任(昭和60年2月迄) 昭和60年3月監事就任(花の舞酒造株式会社相談役)
監事	石橋一郎	非常勤	平成6年4月理事就任(平成9年3月迄) 平成6年4月常務理事就任(平成9年3月迄) 平成9年4月監事就任
監事	西頭徳三	非常勤	平成23年4月監事就任
監事	齋藤安彦	非常勤	平成21年4月監事就任(弁護士)

(6)評議員の概要

評議員 45人(定数39人以上51人以内)

〈平成23年4月1日現在〉

氏名	在任年月	主な現職等
角 替 弘 志	10年	常葉学園大学学長
中 村 正 義	12年	浜松大学学長
木 宮 健 二	9年 1か月	富士常葉大学学長
木 宮 岳 志	3年11か月	常葉学園短期大学学長
内 藤 恭 久	2年	常葉学園医療専門学校校長
若 杉 仁	新任	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校校長
木 村 美知子	新任	常葉学園中・高等学校校長
吉 村 耕 司	6年	常葉学園橘中・高等学校校長
大 石 富 之	3年	常葉学園菊川中・高等学校校長
小 林 成 樹	6年	常葉学園大学教育学部附属橘小学校校長
稲 葉 昌 代	1年	常葉学園短期大学附属とこは幼稚園園長
大 堀 昌 子	5年	常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園園長
木 宮 一 邦	20年	常葉学園企画監
鈴 木 治	新任	浜松大学副学長・ビジネスデザイン学部長
高 木 敏 正	2年	常葉学園人事監
鈴 木 薫	3年	常葉学園大学副学長・外国語学部長
中 川 邦 明	1年	常葉学園大学副学長・教育学部長
筒 井 祥 博	1年	浜松大学副学長・保健医療学部長
稲 葉 光 彦	5年	富士常葉大学副学長・保育学部長
畑 隆	2年	富士常葉大学総合経営学部長・図書館長
尾 崎 富 義	新任	常葉学園短期大学副学長
勝 俣 元 雅	26年	常葉学園大学第1回卒・静岡市立小学校教頭
池 村 俊 典	新任	浜松大学第1回卒 保険代理業
小 倉 岳 彦	11年	常葉学園富士短期大学第1回卒・会社員
稲 川 直 子	2年	常葉学園短期大学第2回卒・特養老園長
小 澤 美佐子	10年	常葉学園中高校第13回卒
三 坂 加代子	新任	常葉学園中高校第20回卒・常葉学園中高校事務長
村 上 信 也	6年	常葉学園橘中高校第7回卒・会社役員
伊 藤 元 久	10年	常葉学園菊川中高校第6回卒・元同窓会会長・会社員
町 田 益 己	32年11か月	常葉学園橘中高校第7回卒・常葉学園大学後援会OB会会員・県職員
望 月 春 雄	4年	常葉学園大学後援会OB会会員・常葉会顧問・会社役員
矢 部 正 則	2年	元浜松大学後援会会長・会社員
三 澤 賢 治	6年	富士常葉大学後援会OB会会長・会社役員
池ヶ谷 恒 雄	2年	常葉学園短期大学後援会OB会会長
前 畑 謙 次	2年	常葉学園中高校PTA顧問・会社役員
山 田 誠	6年	常葉学園橘中高校第15回卒・PTA会長・県議会議員
大 橋 隆 夫	4年	元常葉学園菊川中高校PTA・後援会会長・菊綾会理事
木 宮 和 彦	60年 4か月	常葉学園学園長
海 野 晴 男	21年	常葉学園名誉理事
狩 野 義 之	8年	前常葉学園本部企画部長
加 藤 薫	新任	常葉学園本部事務局長
三 浦 均	6年	前常葉学園常務理事
山 本 陽 一	21年	常葉学園名誉理事・常葉福社会理事長
海 野 泰 男	36年11か月	常葉学園名誉学長
永 井 衛	6年	元静岡大学学長

(7)教職員の概要

(平成23年5月1日現在 単位：人)

		常葉学園本部	常葉学園大学	浜松大学	富士常葉大学	常葉学園短期大学	常葉高等学校	常葉中学校
教員	本務		89	129	62	45	33	9
	兼務		163	158	97	168	22	14
職員	本務	48	33	30	27	18	4	1
	兼務	33	10	21	21	16	2	0

		橘高等学校	橘中学校	菊川高等学校	菊川中学校	橘小学校	とこは幼稚園	たちばな幼稚園
教員	本務	50	15	55	13	27	11	11
	兼務	56	13	39	8	19	5	5
職員	本務	6	1	6	1	2	1	1
	兼務	4	6	5	0	1	0	0

		医療専	静岡リハ専	常葉リハ病院	総合計
教員	本務	15	10	0	574
	兼務	11	47	0	825
職員	本務	3	5	70	257
	兼務	1	1	26	147

(注) 本務者の平均年齢は、教員47.3歳 職員は42.7歳である。

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

現在の教育を取り巻く環境は、初等中等教育においては、幼保一体化の基本制度の決定、学習指導要領の改訂に伴う授業時数や学習量の増加等の改革が進められつつある一方、高等教育においても社会貢献の一層の推進や積極的な情報公開、FDの推進による大学教員の質の向上、学士教育の質の保証等が厳しく要求されるなど、社会は学校の設置者に対してこれまでより以上に良質な教育を提供するよう強く求めています。

また、文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会では、「中長期的な大学教育の在り方に関する第四次報告」の中で、私立大学が健全に発展するための今後の改善の方向として

- ① 自己の強みを最大限活用した「自立・発展」
- ② 規模のメリットを活用し、相互補完効果を生む「連携・共同」
- ③ 不採算部門の縮小・廃止を行う「撤退」

の3点を掲げ、将来的な方向性について学校法人自らが早期に判断するよう提言しています。

平成22年度に策定し、本年度も鋭意推進してまいりました重点事業計画のうち「学園内3大学の統合計画」及び「学部新設計画」は、この中教審の提言の①及び②を先取りしたまさに時宜を得た政策であろうと自負しているところでもあります。残る重点事業計画である常葉中・高等学校の校舎改築工事及び新学部校舎建築工事（I期）については、平成24年2月に着工し、年内の完成に向けて工事が進められています。

さらに、統合後の大学名を「常葉大学」とすることに決定し、これに伴うUI（ユニバーシティ・アイデンティティ）の一環として新たなロゴマークも作成し、新生「常葉大学」を社会に向けて広くアピールしてまいります。大学名変更に合わせて短期大学名も「常葉大学短期大学部」とすることも決定しました。

このほか、教育環境の整備・充実を進めるために常葉短大、橘中・高校、菊川中・高校それぞれの校舎改築に向けた「常葉学園施設設備（改築）中長期計画」について策定しました。

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

① 組織の充実・強化

教職員の能力を十分に引き出すとともに組織体としての機能強化を図ることによって厳しい経営環境の中で果敢かつ安定的な経営を実現するため、以下の点について推進しました。

第一に、寄附行為に基づく常務理事会は、平成23年度には理事長、副理事長、常務理事が出席し、常葉学園大学学長及び浜松大学学長並びに常葉学園橘中・高等学校校長が陪席して年間30回余り開催し、業務の円滑な遂行に資するよう努めました。

第二に、諸規程の整備については、育児・介護休業等に関する規程及び給与規程の一部改定をはじめ、大学入試手当の取扱いに関する基準の改定等を行いました。新会計システム導入等

に伴う経理規則・同施行規程の改正を行い、また、危機管理規程を新たに制定しました。

第三に、事務職員の職階制度は、適用を開始して2年目を終了し、多くの事務職員が昇格しました。

第四に、監査機能の充実については、前年度に行った内部監査において指摘した課題についての対処・改善の状況などを中心に内部監査を実施しました。その結果、各所属において改善した事項が多く見られました。

第五に、職員の能力向上については、基本研修が定着し、多くの新任教職員及び新任管理職事務職員がプログラムに沿った研修を受講しました。管理職研修会及び夏期研修会については、統合を見据えた学園の発展をテーマとした研修を実施しました。

また、学外研修については、教育力及び事務力向上に資する研修に多くの教職員が参加しました。

第六に、コンピュータによる事務システムの見直しについては、新たに導入した人事・給与システムが稼働して2年を経過しました。また、導入当初は問題を抱えていた会計・固定資産システムも調整を進めた結果、平成22年度の決算処理は無事終了しました。

最後に、大学統合及び水落校地整備（学部新設計画含む）のために、平成23年2月1日付けで学園本部に新たに大学統合・学部新設準備機関を設置し、同25年4月の実現に向けて作業を開始しました。

② 財政の健全化

学校法人を取り巻く経営環境は、少子化の進展に伴う学齢人口の減少と景気停滞による家計収入の減少が学生・生徒の確保に極めて大きな影響を及ぼすなど、ますます厳しさを増しています。こうした中であって、建学の精神に基づいた教育・研究を実践して有為な人材を世に送り出すという私学ならではの使命を果たすためには財政基盤の健全化が一層重要であります。

学校法人の主要な収入源は、学生生徒等納付金と補助金であります。帰属収入に占める学生生徒納付金の割合は年を追って減少し、公的機関においても財政の逼迫から補助事業の見直しが進められています。こうした収入環境の変化に対応するため、安定的に事業収入が期待できる常葉リハビリテーション病院の経営合理化などに取り組み、前年度を1億15百万円上回る事業収入を確保したほか、納付金や補助金の減少に伴う教育研究経費、管理経費の見直しを進め1億46百万円の支出を削減することができました。今後も引き続き事業の見直しを行い、効率的な事業の推進に努めてまいります。

また、私立学校法で義務付けられている財務の情報公開につきましては、平成17年度に財務書類閲覧事務取扱要領を制定し、財務情報の円滑な公開に努めているほか、学校法人が公共性の高い法人として説明責任を果たし、関係者の信頼や支持をより得られる観点から法人と各学校のホームページに財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監事による監査報告書を掲載し、情報提供しているところであります。

③ 特色ある教育事業の実施

建学の精神を体現した特色ある教育研究活動を実践するという普遍的な事業を継続しつつ、時代の要請に即応した斬新な手法も取り入れることによって社会から理解と支持を得て入学者の確保を図り、安定した教学運営を行うことを第一義として、以下に掲げる事業を重点的に推進しました。

i) 大学・大学院、短期大学、専門学校

- 各校は、建学の精神に則った特色ある教育研究活動を実践し、有為な人材を育成して社会に送り出すことはもとより、こうした教育研究活動やアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）等の情報を積極的に発信することにより、入学定員の確保に努めました。
- 各校は、新たな学習環境に速やかに適応し、かつ専門教育も円滑に受容できるよう新入生に対する入学前教育及び初年次教育のより一層の充実に努めました。
- 各校は、教育力及び事務力の質的向上のために FD（ファカルティ・ディベロップメント）及び SD（スタッフ・ディベロップメント）を継続して推進しました。
- 大学・短期大学各校は、教員免許更新制の継続に対応し、引き続き教員免許状更新講習を実施して高等教育機関としての社会的使命を果たしました。
- 大学・短期大学各校は、特色ある教育・研究活動の実効性をより高めるために教育課程の一部を改定するなど、学則の変更を行いました。
- 課外活動においては、運動部関係では浜松大学（サッカー部・剣道部女子・陸上競技部・男子バスケットボール部・エアロビック部・フィギュアスケート部・一輪車競技同好会）、富士常葉大学（水泳部）、常葉学園短期大学（テニス部・女子バドミントン部・女子バレーボール部・女子バスケットボール部）の団体・個人が全国大会に出場を果たしました。このうち、浜松大学ではエアロビック部がチームエアロビック部門で優勝、サッカー部と一輪車競技同好会個人エキストリーム部の部が 3 位に、富士常葉大学でも水泳部が男子個人高飛込で優勝、男子団体が準優勝、女子個人板飛込でも 3 位に輝くなど、活躍が目立ちました。
また、常葉学園短期大学では、日本語日本文学科の学生が第 5 回全日本ジュニア短歌大会で優秀賞を受賞し、音楽科の学生が、第 19 回「音楽と地球」ブルガリア国際コンクールソロ部門で優勝、第 21 回全日本ジュニアクラシック音楽コンクールの声楽部門で 3 位、第 21 回日本クラシック音楽コンクールの声楽部門でも 3 位入賞を果たすなど、文化面でも存在感を示してくれました。
- 各校における主要事業の実施状況は以下のとおりです。

<常葉学園大学>

ア. 教育学部の充実

- 教育学部（生涯学習学科及び心理教育学科）の入学定員増（各学科とも 20 名）については、6 月に文科省に申請し、8 月に申請どおり認可された。

- 教育学部の教職課程認定申請については、文科省免許課の見解に従い、中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）については生涯学習学科生涯スポーツ専攻、特別支援学校教諭一種免許状（知的障害、肢体不自由、病弱）については初等教育課程においてそれぞれ申請し、3月に申請どおり認可された。

イ. 外国語学部の充実

- 外国語学部グローバルコミュニケーション学科は、平成24年度から国際英語、スペイン・ラテンアメリカ、日本語教育の3専攻を廃止し、学科全体としてグローバルな視野を持ち、社会において即戦力として活躍できる人材の育成を目指してカリキュラムの変更を行った。

ウ. 第三者機関による認証評価

- 認証評価については大学が大学基準協会、教職大学院が教員養成評価機構による認証評価を受審し、いずれも平成23年10月に実地調査を受け、同24年3月に基準に適合しているとの評価を受けた。

<浜松大学>

ア. 学生募集対策の充実

- 「学生が満足できる大学作り」を目指し、在学生2,200名確保（入学生は学部生610名、編入学生20名、大学院生34名）を目標に、①高校訪問の強化、②オープンキャンパスの動員強化と内容の充実、③Webサイトのリニューアル、④相談会・模擬授業への積極的参加、⑤継続的なDMの送付、⑥3大学統合のメリットの活用等を通じて積極的に学生募集活動に取り組んだ。
- 本学からの情報発信に対して、受け手側も十分な反応を示していたが、結果的には志願者数こそ前年度と同じ水準を維持したものの、入学者は前年度を下回る結果となった。

*入学者数 525名（前年度比-32名）

[内訳]学部生477名（-33名）、編入学生25名（+8名）、大学院生23名（-7名）

- ここ数年来の傾向として、一定数の志願者は確保するもののそれが入学に結びつかない状態が続いており、原因の究明と抜本的な対策の構築が喫緊の課題である。

イ. 教育の満足度向上

- 学内向けにシラバスのPDFファイルを公開した。
- 7月に学生による授業アンケート（授業満足度調査、前期）を実施した。各教員は、アンケート結果を確認し、授業について気付いた点や改善点を報告書にまとめて提出した。教員から回収された報告書は、内容が閲覧できるよう一覧表にまとめ、全教員に配布した。また、本アンケートに基づき、授業満足度の要因を分析し、夏期の浜松大学教職員研修会にて全教員に対して発表を行った。後期は1月に実施し、前期と同様の方法で各教員の授業改善のための組織的支援も行った。
- 最重要課題でもある就職率の向上は、GPをはじめ様々な取り組みを実施した結果、就職

内定率は 95.5%と前年度から 10 ポイント向上させることができた。

ウ. 研究活動の満足度向上

- 「浜松大学研究活動一覧(平成 21・22 年度)」として冊子を出版して各方面へ配布したほか、本学のホームページでも公開した。
- 総合研究所が主催して科研費獲得のための説明会を実施した。総合研究所では、このほかにも外部資金獲得のための支援活動も実施した。
 - * 科研費採択件数 9 件 (平成 22 年度 9 件)
 - * 受託研究件数 2 件 (平成 22 年度 2 件)
- 学内施設の有効活用方法として、平成 23 年度は健康栄養学科の教員実験室の共同利用化を進めた。また、医療専門学校の施設設備の一部については、学部生・院生の実験実習室として転用の準備を進めている。
- 保健医療学部を基礎として平成 25 年度の設置を予定している大学院健康科学研究科リハビリテーション科学専攻に関しては、プロジェクトチームを編成し、認可申請に向けた取り組みを進めた。

エ. 社会貢献活動の満足度向上

- 地元を中心とした地域との連携強化を主なテーマとして様々な取り組みを実践した。

<富士常葉大学>

ア. 学生募集対策の充実

- 5 月から AO セミナー及びオープンキャンパスを開始した結果、参加者は前年度の 844 名から本年度は 1,097 名と 30%増加した。しかしながらそれが志願までには至らず、克服すべき今後の課題である。
- 学生募集戦略会議を立ち上げたほか、各学部の募集担当教員には担当校を固定し、月 1 回のペースで高校訪問を実施して信頼関係を構築することにより、高校生や進路指導者に対して新鮮かつ確実な情報を伝えることに努めた。入試広報主幹と入試広報課の職員も精力的に高校訪問を行い、教員と職員が協働して学生募集に努めた。

しかしながら、入学定員を確保したのは保育学部 (92 名、前年度比+8 名) のみで、総合経営学部 (116 名、同-9 名) と社会環境学部 (76 名、同+3 名) は入学定員を下回る結果となった。
- 本年度は沼津中央高校と高大連携協定を締結した結果、協定高校は 26 校となった。引き続き地域の高校との連携を深化させることにより学生確保につなげていく。

イ. 就職支援の充実

- インターンシップへの参加者は、地元商工会議所等の協力もあって前年度より 40 名以上増加した。
- 就職強化セミナーへは 60 名以上が参加し、ANA の協力のもとでグループディスカッション

ン等の充実したプログラムが生まれ、大きな成果を上げることができた。

- 大学3年生対象の合同企業ガイダンスは、2月に51の企業から参加を得て実施した。保育学部と留学生を除く200名余りの学生が参加し、本格的な就職活動がスタートした。

ウ. 入学前教育・専門教育の充実

- AO入試及び学園内入試合格者を対象に入学準備段階教育を3回(11/26、1/28、2/25)実施した。
- 新入生を対象に入学前教育プロジェクトを(3/12、3/13、3/14)に実施した。
- A&S(アカデミック&サイエンスフェア2011)において、本学から参加した4組の学生の研究発表が優秀賞を受賞した。

<常葉学園短期大学>

ア. 学科構成の見直し

- 英語英文科については、キャリア教育を一層重視し、就業力を高める学科に改組する方向で検討した。これに伴い、保育科のミッションを単なる幼稚園教諭・保育士の養成から早期英語教育にも対応できる幼稚園教諭・保育士の養成へとバージョンアップし、他大学・短大との差別化を図る予定。平成24年2月には学内の検討チームを編成し、基本的なコンセプト等の検討を開始した。
- 日本語日本文学科と音楽科は学科を維持しながらも、教育内容に即応した教員配置を目指す方向で検討中。従来の日本文学やクラシック音楽から、さらに幅のある「柔らかな」授業科目の開設など、これまでの固定観念を脱する教育的改革を来年度の検討方針とする。

イ. 教養教育の見直し

- 3大学統合後の教養教育のあり方の議論を視野に入れながら、それと整合するよう本年度から平成24年度にかけて検討を進める。平成24年度においてはカリキュラム変更は行わないが、さらに先を見通した改訂に備えるため、平成23年度末から学内に検討チームを設置し、検討を始めた。
- 正課外教育として、学生の社会性を養成するため、学生広報スタッフを充実させたり、橘香祭の実行委員に多くの1年生を抜擢したりした。このことにより確実に学生スタッフが育ち、オープンキャンパス等での活躍の場が定着しつつある。

ウ. 進路支援の強化

- 進路支援委員会のメンバーに各科の科長と専攻科の主任を充てることによって、進路支援を全学的に取り組む体制を整えた。また、副学長が進路支援室代行としてリーダーシップを発揮した。こうした取り組みにより、本年度の就職内定率は96.4%で、前年度を9ポイントも上回る高い数字を残した。

<医療専門学校>

ア. 閉校に向けた浜松大学への円滑な移行作業

- 4学科ともに在学生全員が卒業することが決定したことに伴い、3月11日の卒業式後に閉校式を挙行了。浜松大学への移行作業や閉校に必要な諸手続きも遅滞なく進んでいる。

イ. 国家試験合格率の向上及び就職支援の充実

- 国家試験対策に関しては、模擬試験や個別指導を重点的に実施するなど、教員総動員で指導にあたった。本年度の卒業生の国家試験合格率は、理学療法学科 79.3%、作業療法学科 81.2%、柔道整復学科 94.4%、鍼灸学科 78.6%で、目標としていた 100%には届かなかったものの、合格者の就職率は、4学科とも 100%を達成した。

<静岡リハビリテーション専門学校>

ア. 学生募集活動の充実

- 募集要項やパンフレットの作成を例年より早め、4月下旬から県内すべての高校への学校訪問を行い、さらには過去の実績から重点校・準重点校を選んで再度学校訪問を実施した。
- 進学相談会については、本校にとって貢献度が高いものを厳選して参加した。高校内ガイダンスについては、依頼のあったものについてはすべて対応した。
- ホームページについては、トピックスを昨年度の 46 本を上回る 58 本の更新を行ったほか、DM も昨年度の 876 通を上回る 1,596 通を発送した。

イ. 国家試験合格率の向上及び就職支援の充実

- 国家試験対策として、学内で作成した模擬試験と外部業者の模擬試験を 2 週間に 1 度実施し、学力の定着を確認するとともに段階的に目標得点を設定し、学習の持続を図った。また、前年度の国家試験の出題傾向の分析を踏まえ、専任教員によるゼミ指導と外部講師の集中講義を実施した。さらに、学生には課題を提出させ、担任とゼミ担当がダブルチェックを行い、月～金は 9:00～16:10 まで学校で勉強に取り組ませた。
- 就職ガイダンスとして組織形態別説明会、模擬面接研修、マナー講座、卒業生との交流会を実施した。また、求人用パンフレットについては、7月に県内及び近隣県を中心に 440 件発送、施設訪問については、5～10月に 141 件の訪問を実施した。
- 就職セミナーについては、第 1 回 (6 月) は 30 名、第 2 回 (9 月) は 33 名、第 3 回 (12 月) に 10 名が参加した。
- 本年度の卒業生の国家試験合格率は、92.7%で、就職内定率は 94.3%となった。

ii) 高等学校、中学校、小学校

- 各校は、建学の精神及び各校独自の教育目標に則った特色ある教育活動を実践するとともに、こうした学校情報を積極的に発信して児童・生徒募集を強化することにより、入学定員の確保に努めました。

- 各校は、本学園がもつ総合学園としての特性を十分認識し、さまざまな機会を捉えて系列校間の連携を発展させることにより相互理解を深め、多くの児童・生徒が系列校に進学するよう努めました。
- 各校は、学園内研修はもとより、専門性の高い多様な外部研修にも積極的に参加を図り、教職員の能力開発及び育成に努め、その成果を教育活動や各種指導（進路、生徒、部活動、委員会活動等）に反映し、学校の活性化に努めました。
- 各校は、教育活動や組織を活性化し、学校全体の教育力を高め、保護者や地域住民の信頼と期待に応える学校づくりを行うために「学校評価」を実施しました。
- 運動部活動においては、橘高校女子サッカー部の選手が FIFA U-19 日本代表のメンバーに選出され、チームを優勝に導いたほか、チームでも全日本女子ユース（U-18）サッカー選手権大会で 3 位入賞を果たしました。橘高校では、アーチェリー全国選抜大会男子個人の部でも 2 位に入賞しています。このほか、常葉高校（体操部・バスケットボール部）、橘高校（柔道部、水泳部、少林寺拳法部）、菊川高校（空手部・陸上競技部）、常葉中学（バスケットボール部）、菊川中学（陸上競技部・空手道部）の団体・個人が全国大会へ出場しました。
- 各校における主要事業の実施状況は以下のとおりです。

<常葉中・高>

ア. 学校の特徴作り

【高校・総合進学コース】

- 1 年生が 8 クラス編成で看護医療系に 49 人、保育系に 83 人という大人数になったため、今後はそれぞれの適性を考慮しつつ、学力を向上させていく必要性に鑑み、10 月に外部の専門講師による親子対象職業別ガイダンスを実施し、進路志望の実現に向けて各自の改善点を見つける機会とした。
- 総合文科系統に基礎英語講座を設けることにより、学力に合わせて英語講座を受講できるように配慮するとともに、英検等の資格への挑戦も促した。
- 幼稚園から特養「とこは」まで学園傘下の各所属からの協力を得て、都合 7 回の系統別講座、土曜講座を実施した。
- <スタディーサポート（ベネッセ）を全校で 2 回実施→実力判定テスト→総合学力・実力診断テスト>を導入し、「学力到達ゾーン」を指標にして主体的な学習習慣を身につけさせる取組みを開始した。

【高校グローバルスタディーズコース】

- 英語科以外の教員を主任や担任に登用し、広い視野に立った授業を行った。また、NIE も活用し、国際事情への興味を喚起した。
- 3 年間の指導計画をまとめ、映像的にも見やすい募集用パンフレットを作成した。
- 在校生のうち、2 年生の 3 人が 8 月からアメリカ・オマハへ留学した。10 カ月（2 人）、4

カ月（1人）。

- 月に1回 TOEIC 講座を実施。英検指導はコースの枠を外し、希望者を対象として実施した。

【中学校】

- 聴力等障害を持つ生徒が入学したことにより、障害者理解を含めた人間関係づくりプログラムを中学全校で推進した。
- 橘小で培った英語コミュニケーション力をさらに伸ばさせることを意図して、中1と中2の希望者を対象に「サイモン先生のジュニア英会話講座」（週1回）を開講した。希望した1年（16人）と2年（6人）の生徒は欠席もせず、毎回積極的に受講した。
- 8/25(木)～8/27(土)にかけて Tokoha English Summer Seminar を開催した。参加者した1年生6人は、3日間英語漬けの日々を体験し、話す力・聴く力を伸ばした。
- 学習方法のヒントを提供し、学力差を解消していくための取り組みとして「すらら」を導入した。3学年合わせて54人が登録し、家庭での活用を開始した。
- 常葉学園大学から「学習支援ボランティア」を派遣してもらい、2学期から授業中の学習支援を始めた。

イ. 教育力の向上

- 「生徒自身で考え、調べ、意見をまとめ、発表する授業」を目的とした校内授業研修会を6月7日に実施。教科の枠を超えて研修を行った。
- 教科別授業研修会を10月27日に実施。中堅教員が中心授業を行う教科が多く、思考力・表現力の育成に向けて全校で取り組む方策を見出す、示唆に富む内容であった。
- 多くの教員が授業力向上と全校で取り組む方策を求めて校内外の研修会に積極的に参加している。

ウ. 継続的な生徒募集の強化

【高校】

- 出願の内申点目安を変更した。これは単願者の9教科評価合計を上げることにより、入学者の学力向上に繋げることを期待したものである。

【中学校】

- 学校説明会の度に実施している「英語で遊ぼう」や English Adventure 等の企画に親子での参加を促し、英語コミュニケーションの楽しさを実感することにより出願に結びつけた。

<橘中・高>

ア. 創立50周年に向けた学校改革

- 教育目的・教育目標および教育方針を明文化し、科・コースの改編を決定した。なお、学則定員については、静岡県私学振興課からの指導もあることから継続して検討することとし、校舎改築工事にあわせて決定する。

- 平成 24 年度の教育課程は、「英数科（Ⅰ類・Ⅱ類）」「普通科総合進学コース」「普通科総合芸術コース（吹奏楽専攻、美術専攻）」「普通科一貫コース」とし、これに伴い音楽科は生徒募集を停止した。
- 中学校では、「学習指導」「文武両道」「親学講座」「志教育」について検討した。

イ. 継続的な生徒募集の強化

- 説明会・授業体験会等が毎回同じ内容にならないよう、工夫した。また、募集担当者間の打合せを密にし、説明手順・内容、相談の回答方法などについてはさらに意志統一を図った。
- 高校では、創立 50 周年を機に「常葉橋」が大きく進化することに力点を置いた生徒募集を行った。「目安点」「学業奨学生」の基準等も改善したが、志願者が思うように伸びなかった。特に、旧静岡市駅北側の中学校では昨年度の落ち込んだ状態と変わらず、期待はずれに終わった。その原因は、基本的には学校の教育力・進路実績だと思われるが、駅南側で 90 名ほど回復していることを考えると、それ以外にも原因があることが推測されるため、来年度は担当者の変更も含めさらに検討していく。
- 中学では、さらに充実した「文武両道」を目指し、特に「学習指導」に関して改革・改善を行っていることを生徒募集の際の力点とした。

ウ. 高い学力と精神力の養成

- 英数科を中心に実施している学習指導は、一定の定着をみた。1 学期終了時に点検を行い、その反省をもとに 2 学期に改善を行った。
- 対外試験の結果の教員研修も本格的に始めた。改善の余地はあるものの、教員の意識と求められているものの「差」が、少しずつ縮まってきている。
- 中学では、9 月から放課後強制学習指導を開始した。授業アンケートを実施して以来、教員の意識が著しい変化が現れた。
- 中 3 生を対象として新たに学習合宿を実施した（12 月）。同じく特進コースの 1・2 年生も 3 月末に実施。来年度計画済みの学習合宿は、英数科 1 年（新規）・2 年、一貫コース 2 年、中学 3 年となっている。
- マナーアップ教育がマンネリ化してきたため、改善策を検討する。
- 中学校における取り組みはかなり充実してきたので、平成 24 年度は保護者を対象にした学習会（親学講座）を新たに企画し、実施する予定。
- 部活動の実績は十分とはいえないが、「学校の牽引車」としての意識付けを継続させることとする。

エ. 教育力の向上

- PDCA サイクルによる活動点検については、英数科の学習指導において順調に指導点検等を行えるようになった。
- 授業力の向上や HR 経営・進路指導力の向上のための教員研修については、ある程度定

着した。今後は、教科会の役割と活動の活性化や校内で実施する教員研修（夏季・冬季等）をより充実させるための検討をさらに進める。

- 橘に何が足りないのか。「志の教育」について、特に中学校で検討する。
- 他校への訪問研修は、意識の向上に極めて効果的なので、今後も継続して実施する。
- 次年度に向けて「学習させる」「学力を伸ばす」「文武両道を目指す」「志の教育」などについて検討する。

<菊川中・高>

ア. 継続的な生徒募集の強化

【高校】

- 志願者数・入学者数
単願受験者・入学者
目標 280名（菊川中を除く）
結果 243名が出願し、うち242名が入学
- 併願受験者・入学者
目標 1,000名
結果 854名が出願し、うち39名が入学
- 美術・デザイン科は、ここ数年の水準43名（公立40名、菊川中3名）を維持した。
- 安倍川から天竜川までの区域の中学3年生の数は、平成21年度の9,136名から平成22年度には一気に643名も減少した。本年度はやや持ち直したものの、21年度比430名減という中での入試となり、非常な危機感をもって生徒募集に臨んだ。
- 公立中学からの単願者は、ここ3年間の水準である242名に達したが、恒常的に減少している併願者は本年度も減少に歯止めがかからず854名となった。もともと公立志向が強いところに授業料の無償化が拍車をかけ、さらには焼津中央・藤枝西の1クラス増などが併願者の減少に結びついている可能性がある。このような逆風の中にあって、学校に対する評価の定着、様々な募集戦略、教職員の努力等が功を奏して最終的にはほぼ前年度並みの入学者を確保することができた。

【中学】

- 志願者数・入学者数
目 標 70名
受験者数 60名
不合格者 2名
入 学 者 58名
- 厳しい社会情勢にあって、入学定員確保までにはいたらなかったものの、それに近い入学者を確保することができた。

イ. 教育力の向上

(1) 研修

- 校内研修会を1・2学期に実施した。一部については、学園内授業研究と結びつけて行った。
- 3課の研修会を実施した。
- 授業力向上を目的として、春休みに代ゼミに3名(3講座)、夏休みに駿台教育研究所に8名(8講座)が参加した。
- 静岡県私学教育振興会主催の研修は、授業等に支障がない限りほぼすべてに参加した。
- 教員研修に「豊田順介奨学基金」を積極的に活用した。

(2) 各分掌・教科での取り組み

- 3者面接と2者面接は大変重要な手法であることから、年3回実施した。
- 前年度に復活させた「学習の手引き」は、本年度も引き続き活用した。
- 新学習指導要領の先行実施に伴い、来年度は減単1時間、平成25年度より減単2時間とする。

ウ. 自己評価・学校関係者評価の実施

- 3月に自己評価を実施し、それを受けて学校関係者評価を実施する。

<橘小学校>

ア. 確固とした教育方針

- 社会(集団)の中で、他者を意識した自己実現活動と集団からの評価を通して、自己肯定観と次へのエネルギーが湧き出るよう指導に努めた。
- 集団づくりの内的エネルギー源である「三方よし」を、全教育活動(教科・道徳・特活)を通して体験し蓄積することで、他者とのかかわる自分への自信と歓びを深めることができた。

イ. 確実な児童募集

- 「はじめての学校」をキーワードに、この6年間の重要性とそれに向けた本校の教育実践を園児の体験を含めて見てもらうことに努めた。
- 「学校生活アンケート調査」「在校生保護者への学校説明会」を実施し、弟妹の確実な入学につなげた。
- とこは幼稚園・たちばな幼稚園の両系列幼稚園に限定した学校見学会を実施した。

ウ. 中期展望の具現化

- 橘小教育の再評価を実施し、児童の成長を促す指導の基本構想を策定した。

エ. 橘小「英語教育」のさらなる発展

- 聴き取る力が伸びるとともに、英語圏の児童とでも1対1の場面でも臆することなく対応できるようになった。

- 英検 2 級や準 2 級取得者が増加した。
- 8 月にオーストラリアゴールドコーストのイマジン・エドゥケーション校で語学研修（8 泊 9 日）を実施した。5、6 年生の 16 名が参加した。

iii) 幼稚園

- 両園は、教育活動や組織を活性化し、園全体の教育力・保育力を高め、保護者や地域住民の信頼と期待に応える幼稚園づくりを行うために「学校評価」を実施しました。
- 両園は、短期大学附属という特性を最大限発揮するとともに双方の幼稚園や橘小学校との連携等、他園にはない特色ある幼児教育を実践することにより保護者や地域住民から理解と支持を得るよう努めました。
- 各園における主要事業の実施状況は以下のとおりです。

<ここは幼稚園>

ア. 園児募集の充実

- 未就園児教室（ちびっこランド）や園庭開放日は、幼稚園を知ってもらうことに直結し、園児募集の大きな要となった。また、HP については常にホットなニュースを提供したことにより、特に転勤により入園を希望する保護者にとっては貴重な情報源となった。

イ. 保育の向上

- 教員全体でこれまでの教育課程を見直し、体系的なカリキュラムを作成した。子ども主体の保育を試み、子どもが自発的に遊べる環境作りを教室内外で工夫した。
- 教師の資質向上のために園外の研修に積極的に出向き、研修成果を園の保育に取り入れた。
- 学校評価を 12 月及び 3 月に実施した。

ウ. 短大との連携の強化

- 特に行事等における学生の参加においては、短大保育科はもとより、音楽科の学生によるオペレッタ公演等も大変好評を博した。

エ. 地域との関わり

- 出来るだけ地域に溶け込めるよう町内会に所属し、積極的に活動をした。その結果、三之宮神社からは地域との「ふれあいの使者」になっていると評価された。

<たちばな幼稚園>

ア. 募集定員の確保

- 入園希望者が多数にのぼったため、前年度に続き抽選にて入園許可を決定し、募集定員は確保した。
- 未就園児教室を開催した。参加希望者が多く、柔軟に対応したが、参加者が入園希望と

は限らない事実も判明した。

- 幼稚園からのお知らせや活動を写真とともにブログも活用して園児募集の周知を図った。
- 案内パンフレットを新しく作成し、新園舎とともに紹介した。

イ. 保育の向上

- 新しい保育の在り方を職員間で常に話し合い、実践できる部分から実行した。園内研修も充実し始めている。

ウ. 短大附属幼稚園としてのメリットを生かす

- 前年度よりも短大生の見学や実習が増えたことや専攻科の1年生が1年間を通して実習を行っていることに伴い、短大と幼稚園間の交流機会が増加し、幼稚園として得るものも大きい。

エ. 学校評価

- 前年度は実施できなかった学校評価を実施した。

iv) 豊田順介奨学基金

幼稚園から高等学校までの教育振興のために寄附いただいた「豊田順介奨学基金」の本年度における活用状況は、次のとおりです。

○ 中・高等学校	41 件	7,940 千円
○ 小学校	8 件	710 千円
○ 幼稚園	2 件	211 千円
計	51 件	8,861 千円

v) 募集状況・進路状況

本年度における学生・生徒等募集状況は、学園全体として志願者が前年度を8%下回り、平成22年度の水準に逆戻りしました。ほとんどの学校で志願者を減らすか、よくても現状維持という状態で、残念ながら前年度の好調さを維持できませんでした。特に大学・短期大学においてこうした傾向が顕著に現れました。学生募集に関しては本年度の反省を踏まえ、平成25年度の大学統合・学部新設に向けて、原因を正確かつ速やかに分析して募集計画を再構築し、計画的できめ細やかな募集活動を展開して行く所存です。また、大学・短期大学以外の学校についても安定した生徒・児童等の募集を継続するため、特色ある教育研究活動の推進により一層工夫を凝らしてまいります。

一方、進路状況につきましては、学園内の大学・短期大学における就職内定率は前年度並みかそれを上回る数字を残しております。中でも浜松大学、富士常葉大学、常葉学園短期大学の保育系学部・学科が好調で、いずれも就職希望者全員の内定が決定しました。また、両専門学校においても、国家試験合格者のほぼ全員の就職先が決定しております。さらに、高等学校においても多くの生徒が、所期の進路希望を達成することができました。

〈別表1〉

平成23年度における入学状況及び就職状況

(平成24年5月1日現在)

(1) 大学・短大・専門学校

学校名	学部学科名	入学定員(人)	入学者数(人)	就職内定率(%)
常葉学園大学	教育学部			
	初等教育課程	110	137	97.5
	生涯学習学科	80	98	78.8
	心理教育学科	80	90	87.3
	外国語学部			
	英米語学科	100	104	84.0
	グローバルコミュニケーション学科	70	57	76.7
常葉学園大学	造形学部			
	造形学科	80	77	77.2
浜松大学	ビジネスデザイン学部			
	経営情報学科	120	53	81.3
	サービスと経営学科	120	81	97.4
	健康プロデュース学部			
	健康栄養学科	80	70	100.0
	こども健康学科	60	53	95.7
	心身マネジメント学科	110	80	98.8
	健康鍼灸学科	30	23	—
	健康柔道整復学科	30	31	—
	保健医療学部			
理学療法学科	40	48	—	
作業療法学科	40	37	—	
富士常葉大学	総合経営学部			
	総合経営学科	160	116	85.1
	環境防災学部			
	環境防災学科	—	—	82.4
	保育学部			
	保育学科	80	92	100.0
富士常葉大学	社会環境学部			
	社会環境学科	130	76	—
常葉学園短期大学	日本語日本文学科	80	44	96.0
	英語英文科	80	44	86.7
	保育科	200	209	100.0
	音楽科	55	40	75.0
常葉学園 医療専門学校	理学療法学科	—	—	82.8
	作業療法学科	—	—	93.8
	鍼灸学科	—	—	94.4
	柔道整復学科	—	—	76.9
常葉学園静岡 リハビリテーション 専門学校	理学療法学科	80	75	94.3

※ 大学院、専攻科、留学生別科は除く

(2) 高等学校

①入学定員及び入学者数

		入学定員	入学者数
常葉学園高等学校	普通科	240	236
常葉学園橘高等学校	普通科	420	247
	英数科	80	56
	音楽科	40	-
	合計	540	303
常葉学園菊川高等学校	普通科	315	291
	美デ科	60	43
	合計	375	334

募集停止

②進学・就職状況

	卒業生数	進学者数			就職	その他
		4年制大学	短大	専門学校		
常葉学園高等学校	169	57	41	42	25	4
常葉学園橘高等学校	315	199	34	47	13	22
常葉学園菊川高等学校	314	203	20	65	11	15

④ 教育環境の整備・充実

より充実した教育の実現を図るため、学生・生徒等の学習ニーズの多様化や学校を取り巻く社会環境の変化に対応した施設・設備の整備が重要であることから、教育環境を充実・向上するための整備事業を実施しました。

また、経年により老朽化が進む施設等についても、計画的に更新や補修等の整備を行うため、常葉学園施設整備（改築）中期計画を策定し、本年度から水落校舎（常葉中・高校舎改築及び常葉大学新学部新校舎）の整備に着手しました。

主な整備事業は、次のとおりです。

- 常葉学園大学 … 水落校舎整備（新学部新校舎新築工事）着手
本館1階学生ホール改修、図書館改修（備品含）
3号館MAC教室パソコン更新、教室用パソコン・サーバー更新、
図書館システム更新等
- 浜松大学 … 本館・2・3・5号館ネットワーク機器更新、事務用サーバー・パソコン等更新、図書館システム更新
井戸水ポンプ設置等
- 富士常葉大学 … ネットワーク整備（機器更新）、図書館システム更新等
- 常葉学園短期大学 … 211教室パソコンシステム更新、図書館システム更新等
- 常葉中・高等学校 … 水落校舎整備（常葉中・高校舎改築工事）着手
成績管理システム構築等
- 橘中・高等学校 … 本館教室塗装工事、新館5～7階ホール床補修工事等
- 菊川中・高等学校 … 野球部室内練習場整備（未成、平成24年度に繰越）
成績管理システム構築等
- 橘小学校 … 校舎1～4階トイレ改修等
- 静岡リハ専門校 … 重心動揺・足圧分布システム、筋電計及び周辺システム機器購入
- リハビリテーション病院 … 病院移転用地購入（契約）
- 法人本部 … 事務用パソコン更新
たちばな幼稚園旧園地売却（契約）

(3) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりです。

施設名・所在地	施設等		面積等	帳簿価額	
常葉学園大学 (静岡市)	校地		52,559㎡	1,222,108千円	本館、1号館、2号館、 3号館、サテライトビル等
	校舎等	6棟	30,195㎡	2,890,524千円	
(島田市)	寄宿舎	1棟	639㎡	74,995千円	川根実習施設
(菊川市)	校地		11,524㎡	160,665千円	
	校舎	3棟	9,184㎡	643,520千円	
浜松大学 (浜松市)	校地		205,599㎡	2,862,728千円	本館、1号館、2号館、 3号館、5号館、トコホール 等 医療専門学校の土地・建 物の一部含む
	校舎等	13棟	34,692㎡	4,784,535千円	
富士常葉大学 (富士市)	校地		88,552㎡	1,942,056千円	1号館、2号館、3号館
	校舎等	6棟	20,617㎡	2,546,386千円	
常葉学園短期大学 (静岡市)	校地		42,848㎡	1,579,607千円	本館、2号館、3号館、 4号館、5号館、6号館、 7号館、8号館、T号館等
	校舎等	11棟	15,149㎡	1,045,920千円	
常葉学園中・高等学校 (静岡市)	校地		42,903㎡	2,383,725千円	本館、北館、東館、 南館、図書館、 常葉会館等
	校舎等	8棟	10,506㎡	116,784千円	
常葉学園橘中・高等学校 (静岡市)	校地		46,020㎡	369,472千円	本館、中学棟、美術棟、 新館、和敬庵 尚志館、行之館、橘志館 等
	校舎等	9棟	18,349㎡	719,576千円	
常葉学園菊川中・高等学校 (菊川市)	校地		73,920㎡	751,815千円	本館、東館、北館、 南館、新館、光葉館、自 修館、美術棟等
	校舎等	9棟	13,892㎡	823,538千円	
常葉学園大学教育学部 附属橘小学校 (静岡市)	校地		13,703㎡	849,610千円	本館、オーケストラレス ン室等
	校舎	2棟	4,113㎡	242,804千円	
常葉学園短期大学 附属とこは幼稚園 (静岡市)	園地		2,500㎡	171,875千円	
	園舎	1棟	1,361㎡	239,032千円	
常葉学園短期大学 附属たちばな幼稚園 (静岡市)	園地		2,283㎡	231,910千円	
	園舎	1棟	1,520㎡	215,789千円	
常葉学園医療専門学校 (浜松市)	校地		0㎡	0千円	土地は浜松大学へ用 途変更 建物は1・2号館の一部
	校舎	2棟	6,539㎡	704,698千円	
常葉学園 静岡リハビリテーション専門学校 (静岡市)	校地		1,033㎡	1,000,036千円	
	校舎	1棟	3,181㎡	408,137千円	
常葉リハビリテーション病院 (浜松市)	土地		6,656㎡	149,664千円	
	病院	1棟	6,132㎡	58,195千円	

施設名・所在地	施設等		面積等	帳簿価額	
法人本部 (静岡市)	土地		4,693㎡	439,117千円	学生寮、研修センター、 迎賓館、スイミング等
	寄宿舎 等	4棟	6,560㎡	336,928千円	
(伊豆の国市)	土地		334㎡	17,000千円	現在使用していない。
(浜松市)	土地		61,747㎡	775,364千円	三ケ日セミナーハウス
	寄宿舎	1棟	733㎡	111,706千円	
合 計(平成24年3月31日現在)	土地		656,874㎡	14,906,754千円	
	建物		183,362㎡	15,963,068千円	
				30,869,822千円	

② 主な施設設備の取得又は処分の状況

平成23年度の主な施設設備の増減は次のとおりです。

ア) 施設設備の取得

- ・常葉リハビリテーション病院 移転・改築用地（平成24年8月頃 取得予定のため未計上）

取得契約締結： 5,777㎡ 契約金額：96,114千円

(手付金 9,000千円支払)

イ) 施設設備の処分

- ・常葉学園短期大学 とこはグリーンフィールド土地譲渡（市道鳥坂40号線改良のため）

譲渡面積： 43.62㎡ 除却金額： 3,206千円

- ・橘小学校 校地土地譲渡（市道鳥坂40号線改良のため）

譲渡面積： 103.15㎡ 除却金額： 6,056千円

- ・法人本部 たちばな幼稚園旧園校地売却

売却面積：1,689.56㎡ 除却(取得)金額：17,910千円

(売却金額：186,286千円)

ウ) 施設設備の用途変更

- ・医療専門学校施設設備の全部または一部を浜松大学へ用途変更

常葉学園医療専門学校理学療法学科及び作業療法学科を浜松大学保健医療学部へ、同じく鍼灸学科及び柔道整復学科を健康プロデュース学部へ発展改組したことに伴い、医療専門学校校地の全部と校舎の一部を浜松大学の校地・校舎へと用途変更する。(年次進行)

変更面積

		旧	新	増減
校 舎	医療専	6,783㎡	6,539㎡	▲ 244㎡
	浜松大	34,448㎡	34,692㎡	+ 244㎡

(4) その他

① 理事会の開催状況

- 第1回 平成23年 4月 1日 (金)
- 第2回 平成23年 5月 21日 (土)
- 第3回 平成23年 5月 21日 (土)
- 第4回 平成23年 10月 15日 (土)
- 第5回 平成23年 12月 23日 (金)
- 第6回 平成24年 3月 20日 (金)
- 第7回 平成24年 3月 20日 (金)

② 評議員会の開催状況

- 第1回 平成23年 5月 21日 (土)
- 第2回 平成23年 10月 15日 (土)
- 第3回 平成23年 12月 23日 (金)
- 第4回 平成24年 3月 20日 (金)

③ 監事監査の開催状況

- 第1回 平成23年 5月 16日 (月)
- 第2回 平成23年 12月 8日 (木)
- 第3回 平成24年 3月 13日 (火)

3. 財務の概要

(1) 財務の概要

本学園の財政運営に当たっては、「学校経営の安定を図り、健全な学校運営のため、堅牢な財政基盤の構築と徹底した支出の削減」を基本目標に、経営の合理化に努めてまいりました。

平成 23 年度における消費収支上の主な財務の概要は次のとおりです。

平成 23 年度の帰属収入（消費収支計算書参照）は、125 億 27 百万円となり、前年度に比べ 1 億 65 百万円の減少でした。これは主として、資産運用収入等のうち事業収入が 1 億 15 百万円、雑収入が 96 百万円増加したものの、学生生徒等納付金収入が 2 億 39 百万円、補助金収入 1 億 13 百万円がそれぞれ減少したことなどによります。

また、基本金組入額は、常葉大学セミナーハウスを本部運用財産に移管したことなどによる取崩しがあったものの、常葉大学新学部校舎の建設に伴う組入れや、第 2 号基本金として常葉学園短期大学校舎新築、橘中・高等学校校舎新築などにかかる経費の組入れを行った結果、前年度に比べ 8 億 84 百万円増加しました。

一方、消費支出は、116 億 24 百万円で前年度に比べ 1 億 36 百万円増加しました。これは、生徒数の減少に伴い教育研究経費が 1 億 33 百万円減少しているものの、退職金など人件費が 95 百万円増加したことなどによります。この結果、消費収入から消費支出を控除した当年度消費支出超過額は、5 億 95 百万円となっております。

次に貸借対照表の概要ですが、資産の部は、前年度に比べ 9 億 12 百万円増加しております。これは、固定資産のうち、建物・構築物 7 億 16 百万円、流動資産のうち現金預金 5 億 34 百万円がそれぞれ減少しているものの、その他の固定資産のうち施設拡充引当特定資産が 12 億円、流動資産のうち有価証券が 6 億 38 百万円増加したことなどによります。

基本金は、当期取崩しが 3 億 50 百万円あるものの、第 2 号基金への当期組入れなど全体で 14 億 98 百万円の組入れがあるため、前年度に比べ 11 億 48 百万円増加し、519 億 24 百万円となっております。

(2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,065	8,304	8,547	8,680	8,671
	手数料収入	165	181	172	163	158
	寄附金収入	128	111	88	115	188
	補助金収入	2,068	2,181	2,250	2,097	2,131
	資産運用収入	203	218	210	176	163
	資産売却収入	514	302	1	1	1
	事業収入	1,087	973	759	709	688
	雑収入	506	408	593	417	366
	前受金収入	1,702	1,724	1,723	1,706	1,728
	その他の収入	4,642	3,842	4,789	6,753	4,084
	資金収入調整勘定	△ 2,479	△ 2,183	△ 2,385	△ 2,273	△ 2,362
	前年度繰越支払資金	7,499	6,370	5,780	3,722	5,158
	合 計	24,100	22,431	22,527	22,266	20,974
支出の部	人件費支出	7,545	7,421	7,628	7,490	7,314
	教育研究経費支出	1,637	1,758	1,801	1,774	1,788
	管理経費支出	912	924	830	876	903
	借入金等利息支出	18	21	24	26	24
	借入金等返済支出	104	104	87	87	87
	施設関係支出	426	360	340	517	964
	設備関係支出	339	298	278	337	328
	資産運用支出	6,022	3,586	4,804	5,368	5,555
	その他の支出	916	1,014	993	641	632
	資金支出調整勘定	△ 784	△ 554	△ 628	△ 630	△ 343
	次年度繰越支払資金	6,965	7,499	6,370	5,780	3,722
	合 計	24,100	22,431	22,527	22,266	20,974

(3) 消費収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,065	8,304	8,547	8,680	8,671
	手数料	165	181	172	163	158
	寄附金	143	168	131	317	239
	補助金	2,068	2,181	2,250	2,097	2,131
	資産運用収入等	2,086	1,858	1,563	1,303	1,217
	帰属収入合計	12,527	12,692	12,663	12,560	12,416
	基本金組入額合計	△ 1,498	△ 614	△ 1,138	△ 844	△ 887
	消費収入の部合計	11,029	12,078	11,525	11,716	11,529
消費支出の部	人件費	7,545	7,450	7,658	7,492	7,314
	教育研究経費	2,726	2,859	2,950	2,913	2,909
	管理経費	1,020	1,033	939	983	1,000
	借入金等利息等	333	146	75	68	44
	消費支出の部合計	11,624	11,488	11,622	11,456	11,267

(4) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目 名		平成24年3月31日	平成23年3月31日	平成22年3月31日	平成21年3月31日	平成20年3月31日
資 産 の 部	固定資産	45,949	45,273	44,356	43,081	42,535
	土 地	14,906	14,909	14,937	14,937	14,700
	建 物 ・ 構 築 物	16,494	17,210	17,766	18,328	18,778
	機 器 備 品	1,625	1,632	1,647	1,787	1,878
	図 書	2,776	2,745	2,712	2,674	2,602
	その他の固定資産	10,148	8,777	7,294	5,355	4,577
	流動資産	10,469	10,233	9,920	10,216	9,479
	現 金 預 金	6,965	7,499	6,370	5,780	3,722
	その他の流動資産	3,504	2,734	3,550	4,436	5,757
	合 計	56,418	55,506	54,276	53,297	52,014
負 債 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 の 部	固定負債	2,156	2,218	2,237	2,277	2,362
	長 期 借 入 金	600	704	808	913	1,000
	退 職 給 与 引 当 金	1,422	1,422	1,394	1,364	1,362
	その他の固定負債	134	92	35	0	0
	流動負債	2,756	2,685	2,640	2,662	2,400
	短 期 借 入 金	104	104	104	87	87
	前 受 金	1,716	1,738	1,736	1,717	1,741
	その他の流動負債	936	843	800	858	572
	基本金	51,924	50,776	50,437	49,758	49,084
	消費収支差額の部合計	△ 418	△ 173	△ 1,038	△ 1,400	△ 1,832
合 計	56,418	55,506	54,276	53,297	52,014	

(5) 主な財務比率比較

(単位: %)

比率名	算式	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	7.2	9.5	8.2	8.8	9.3
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	105.4	95.1	100.8	97.8	97.7
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	64.4	65.4	67.5	69.1	69.8
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	60.2	58.7	60.5	59.6	58.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	21.8	22.5	23.3	23.2	23.4
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.1	8.1	7.4	7.8	8.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	379.8	381.1	370.8	383.7	395.0
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	9.5	9.7	9.9	10.2	10.1
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	91.3	91.2	91.0	90.7	90.8
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.0	98.2	98.1	97.7	97.8

(6) 借入金の状況

借入先	借入金額(千円)	借入残高(千円)	利率(%)	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	558,000	31,000	4.9	平成24年9月	土地、建物
〃	1,000,000	388,850	2.2	平成30年9月	土地、建物
〃	320,000	284,320	2.1	平成39年9月	土地、建物
合計	1,878,000	704,170			

(7) 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額 (円)	摘要
一般寄付金	浜松大学後援会	16,000,000	通学バス管理委託費
一般寄付金	浜松大学(学校行事支援整備会計)	22,400,000	通学バス管理委託費
特別寄付金	常葉学園大学後援会	30,000,000	学生ホール(本館1階)改修
特別寄付金	常葉学園大学後援会	5,500,000	学生ホール(本館1階)備品購入
特別寄付金	浜松大学後援会	3,541,600	通学バス購入(浜松200は255)
特別寄付金	浜松大学後援会	4,000,000	教室改修工事(視聴覚機器設備)
特別寄付金	(独法) 科学技術振興機構	6,258,100	研究費(富士大・石田明生)
特別寄付金	(財) 日本環境整備教育センター(柴山基金)	3,000,000	研究費(富士大・小川浩)

* 300万円以上の寄付金を記載

(8) 補助金の状況

私立大学等経常費補助金については、4大学合計で6億71百万円余、静岡県私立学校経常費補助金(専門学校、高中校、小学校、幼稚園が対象)については、11校合計で13億4百万円余の交付を受けています。